

冬紅菜

ふゆまみじ

まわりが枯れを深める中の紅菜、また、冬になってから色が際立つてくる景観の様子を表す季語。京都の紅葉情報も、例年より色付きが遅いなあという印象です。



今年一年も大変お世話になりました。今年のテーマとして「ワクワク-waku waku-」を掲げましたが、大変な時でもめげずに向き合い、挑戦し、みんなで楽しむことを意識できたと振り返ります。こと京都人として経験したことを、また新しい年でも活かしてまいります。

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことわざだより

NO.211

2024年12月号

TEL: 075-601-0668

こと京都株式会社

KOTO GROUP
4A

冬葱

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

これから旬の冬葱のお届けです

12月後半に入ると京都の北部は積雪の可能性も高まってくる為、今月の前半は美山や丹後の産地、後半からは産地も南下して京都市内や亀岡で育った冬葱をお届けします。

今年の11月は例年に比べ比較的気温の高い日が続き、畑の葱たちの生育にはとても良い条件でした。夏場の猛暑によって受けたダメージは徐々に回復の傾向にあります。急な冷え込みで、段々と葉が厚くなり、内側の「あん」も蓄えられていく冬葱。手応え、食べ応えを感じていただきたいです。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信

温暖な気候が終わり、急ぎで冬支度を

今年の11月は気温が高かったことは生育には好条件でしたが、秋の中頃に台風が発生には頭を悩ませた月にもなりました。ここからは、生育面でも気温も落ちてくるシーズンになるので、春葱の確保のためにも、農人たちは急ピッチで被覆をかける作業に追われています。毎年恒例作業の被覆は、12～3月頃までの生育適温外での低温に対する保温ができ、霜、凍結、雪害に対する葉折れ等の被害軽減にもなります。簡単に言うと、

畑のねぎたちにお布団をかけてあげるようなニュアンスですね。とはいえ、日中に気温が高くと、被覆内は高温多湿条件下となり、べと病などの病気発生のリスクが高まるので設置時期や回収時期の見極めはとても大事です。

雪の多い京都府北部の美山・丹後地域は、雪の重みによる被覆の倒壊のリスクが極めて高い為、被覆の実施は京都府南部の市内・亀岡で実施しています。



被覆の資材（お布団）をかける前に、アーチの支柱を立てて準備します。

とある日の農人日記。

収穫する葱は良い状態でも、厳しい状態でも大切に取らせていただきますが、やはり、状態がいいとリズム良く収穫できて楽しくなります。疲労感も軽減されるように感じます。（収穫班・井上）

※年末年始、余裕を持ったご発注を※
毎年この月（中旬以降）は、年末にかけての繁忙期・交通事情等で時間指定されていても延着等のトラブルが発生しています。万一に備え、店舗様の方でも、通常より在庫をお持ち頂き、若干の延着が発生しても影響が緩和できるようにご協力いただけますと幸いです。